

広 報

ふじかわ

12月号 昭和57年12月20日発行

No. 257

町のメモ

昭和57年12月1日現在

人口	16,952人
増減	+6人
男	8,378人
女	8,574人
世帯数	4,308世帯
面積	31.09km ²

富士川町 総務課



町の今年の目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

富士川合戦ていつごろあったか知っている

(表紙のことばは2ページに)

交通安全は「ゆとりと思いやりの心」から

年末・年始の交通事故防止

街は人の波、道路は車の「洪水」。街全体が何となく「気ぜわしくなるのが「12月」です。

行者にとっても大切なのは「心のゆとり」とお互いに相手の立場を尊重する「思いやりの心」です。

その気ぜわしさのなかで、ややもすると、私たちは、心のゆとりを見失いがちです。交通事故防止——ドライバーにとっても、歩

年末から年始にかけての交通事故を防止するためにも「ゆとりと思いやりの心」をもつて安全運転、安全走行を心掛けましょう。

庵原郡で

富士川町がトップ

昭和56年の交通事故件数をみると——全国では四十八万五千三百六十六件、静岡県内では四万六千七百三十九件（交通事故による死亡者は三百五十九人で、全国ワーストテン）の八番目、ちなみに全国では八千七百十九人が死亡、発生しています。また、庵原郡となりまして二百五十七件。さらに三町別では——
富士川町 九十二件
蒲原町 八十二件
由比町 八十三件
——となり、庵原郡内で富士川町が「ワーストワン」と、不名誉な

記録になっていることがわかります。つきに、昭和55年から三年間の町の月別事故件数を左表でみますと、事故件数が年々増加傾向にあることと、毎年11月ころから事故件数が増えていることが如実に現われていきます。そして、今年も10月までに七十件発生しています。では、もう少し庵原郡内の昭和56年の交通事故を中心に、話を進めることにします。まず、天候別の発生状況をみますと——

晴れ 百四十三件
くもり 七十五件
雨 三十九件
——と、圧倒的に視界のはっきり

しているはずの「晴れ」の日に発生しています。また、曜日別の発生状況をみますと——

日曜日 四十四件
月曜日 二十八件
火曜日 三十六件
水曜日 三十一件
木曜日 三十五件
金曜日 四十六件
土曜日 三十七件
——と、休日や休日の前日に多く発生しています。最後に、時間別の発生状況をみますと——

0～2時 十五件
2～4時 八件
4～6時 五件
6～8時 十九件
8～10時 二十四件
10～12時 二十五件
12～14時 十六件
14～16時 三十四件
16～18時 四十六件
18～20時 二十六件
20～22時 十九件
22～0時 二十件
——と、朝・夕、特に夕方に多く発生しています。夕方に事故の発

町の月別事故件数

年	55	56	57
1	8件	5件	7件
2	7	5	6
3	7	9	3
4	5	5	10
5	9	8	10
6	9	4	3
7	6	11	5
8	5	9	14
9	10	8	6
10	4	6	6
11	7	12	6
12	6	10	
計	83	92	



生が多いということは、一日の仕事の疲れや夕暮時の視野の減退など、いろいろな要因が関係しているのではないのでしょうか。

スピードの出し過ぎは「自殺行為」

さて、最近の交通事故のなかで目立つものをみると「追突事故」がトップにあげられます。この原因には、わき見運転・前方不注意・車間距離不保持などの他、制限速度を超えたスピードの出し過ぎが考えられます。

状況などを考え、危険を未然に防止し、交通の安全が保てる速度ということで指定されているわけです。ですから、スピードの出し過ぎは自ら危険を冒し、死への道を進んでいるのと同じことです。ドライバーのみなさんは「スピードの出し過ぎは事故につながる」ということを心に銘記し、制限速度内で走ることを心掛けましょう。

飲酒運転防止は「三ない運動」の実践から

年末から年始にかけては「忘年会」や「新年会」などがあり、何かとお酒を飲む機会も多くなりま

す。この時期、ドライバーのみなさんに特に注意してもらいたいのが飲酒運転による事故です。飲酒運転の実態をみますと、まず酒に対するドライバーの認識不足が目立ちます。なぜ飲酒運転をしたか——という問いに対して「あまり酔っていないか」とか「少ししか飲んでいないから」と答える人が多く、なかには「酔った勢いで」という無鉄砲なドライバーもいます。つまり、アルコールの影響を

理解していないと言っていること、飲酒運転の防止にはドライバー自身が気を付ける

歩行者の安全な横断は自らの手で

一方、歩行者のみなさんも、年末になると気分的にあわただしくなり、つい先を急ぐ気持ちから、いきなり道路に飛び出したり、無理な横断をしたりする光景が目につきます。しかし車は急に止まれません。急ブレーキを踏んでから車が止まれるまでの距離はというと、時速六十キロで約六十メートル必要です。また、時速六十キロでの走行距離は一秒間で約二十メートル。まだ遠くに車がいると思っても、アツというまに近づいてきます。はやる気持ち、あせる気持ちは歩行者のみなさんにも禁物です。「自らの安全は自らの手で」を合言葉に交通事故に遭わないために、次のことを実践しましょう。

●横断歩道や歩道橋、横断地下道など、安全に渡れる場所を選んで横断しましょう。
●横断するときには必ず、いったん立ち止まり、安全を確認め、速やかに渡りましょう。
●駐停車している自動車の間や、渋滞でノロノロ走っている自動車の直前直後の横断はやめましょう。
●歩行者、特に子どもやお年寄りのみなさんが左右の安全を確認めずに横断しようとしているのを見かけたら一言声を掛けたり、手を引いて横断を手助けしてあげましょう。
●夜間外出する場合には、明るい色の服装を心掛けたり、反射材（車のライトなどに照らされる）と反射するもので、衣服につけるもの他に、カバンや靴底などには反射テープなどもあります（の付いた服などを着るなどして、ドライバーからよく見えるような配慮をしましょう。



こんなことは二度と「免

り、アルコールの影響を

理解していないと言っ

ていること、飲酒運転の防止

にはドライバー自身が気を付ける



戦場の巨人

時は一九八二年の11月27日チビツ子の平維盛・忠度・知度らの平氏軍は中郷地区を進軍、途中宇多利神社で戦勝を祈願し、決戦場の河川敷グランドへ。一方、源頼朝の源氏軍は岩洲地区を進軍、こちらも八坂神社で戦勝を祈願し河川敷グランドへ。午前11時には、両軍が河川敷グランドをはさんで対陣した。
これは、町立第一小学校のチビツ子たちが源平富士川の合戦の故事にちなんで「富士川の戦」を再現することで、郷土の歴史に興味を持ち、また自分たちがそれぞれの衣装を手作りすることにより創作力と自らの手で製作されたものを学んでもらおうと計画されたものである。よい・かぶと作りは9月から行ったというだけあって、形だけでなく色彩も鮮やかに、旗差し物も立派な武者ができた。
ところで当日の決戦は「那須の与一ゲーム」や「やぶさめゲーム」などが行われ、平氏軍・源氏軍とも一歩もひけをとらない戦いとなった。

広報ディスプレイ

わが家の重大ニュース

今月のテーマ

昭和57年も早いもので、すでに12月も半ばとなり「シングルベル・シングルベル」とか「もういくつ寝るとお正月」と、子どもたちのかわいらしい歌声が聞かれるようになりまして。みなさんも何かとあわただし

日々を過ごしていることでしょうか、その反面、今年一年を振り返ってみる余裕も持ちたいものです。 今月は、六人のみなさんに今年一年を振り返ってもらいました。

思いもがけなかった

息子の病氣

南町一 佐野敦子さん(40)

今年のが家の重大ニュースを振り返ってみますと、何と



者言 提月 望洋 子さん

あつという間に月日が流れ、今年も余すところが少なくなってきました。いつもこのごろになると感じることは「時のたつのは早いなあ」ということです。

わが家のこの一年間を振り返ってみると、最大の出来事は末娘の進学のことでした。1月ごろまでに最終的な希望を決定し、2月に

も中学校二年生の息子の病氣。軽い気持ちで尿検査に近くの病院にいきましたのに、突然お医者さんから呼ばれ「急性腎炎です。学校も二週間ほど休み、安静にしな

い。慢性になると大変ですよ。食事は塩分を控えて」と言われ、青天のへきれき。小さいころから病氣には縁のなかつた子どもが、まさかと思いました。

受験、無事合格して4月に入学式を迎えられました。子どもを進学させるのは初めてのことでないけれど、女の子ではあるし、電車通学で遠い学校へやることには一抹の不安がありました。しかし、新しい高校の制服に身を包み、少し緊張して通学する娘の毎日を見てみると、それは親の取り越し苦労だと思えるようになりました。

を決めたのも今年の出来事の一つでした。 ともあれ、重大ニュースが病氣や事故ではなく「娘の進学」であるということは、わが家の一年が平穩無事に過ぎた証拠で家族全員が健康で学業や仕事に励むことができたのが、平凡ではあるが、実は重大ニュースの一つかもしれない。私も熟年といわれる年になりつつある現在「息子の結婚」がわが家の重大ニュースになるのは、いつの日か

高校一年の娘と大学二年の息子を抱えて、わが家の教育費は倍増しました。親としてこれからの正念場であると、主人ともども覚悟

ようとしている。六〇歳を過ぎ、いくら地域発展のためとはいえ、考えてしまう。老いては子に従えとかいいますが、来春入学の孫の喜びとともに、移転の難問題という不安をいだき、家族そろって四苦八苦の一年でした。

いんだけど」とときましく語る姿は母にとつてつらいものであ

「また来年がんばればいいんだよ」とはげましながら、こういう場面をこれからもみなければならぬかもしれないと思うと一抹の不安を覚える。これを出発点に、これから子どもにとつても母にとつてもつらい試練が待ち受けているはずなのだ。どちらがどうなっても、くじけず泣きながら子どもたちに育ってほしいと願わずにはいられません。

姉妹そろって

自転車免許試験に挑戦

小池 安藤鈴江さん(34)

私たちには二人の子どもがいる。その子どもたちが今年初めて免許証を取るための試験に挑戦した。といつてもかわいいもので

学校での年に一度の自転車免許試験のことである。二人ともペーパーテストには合格「やったね! 次は実地ががんばってね!」とはげましたが、一人が不合格になつてしまった。その落胆ぶりは強く「お姉ちゃんも頭がいいんだ。私もお姉ちゃんほど頭がいいとい

移転問題で

今年も暮れた

坂下 望月ともえさん(62)

今朝もブルドーザーやシャベルカー、クレーンなど、数十台が入り乱れ、けたたましくざわめいている。坂下の移転跡の空地には、工事事務所や立ち入り禁止の柵が置かれて急ピッチで復旧工事が進んでいる。

ところで、わが家の重大ニュースは、数年前から頭の痛い移転問題である。坂下に店舗を持ち三十有余年、お客さんに愛され親しまれ、愛着を捨てきれない。しかし県道富士川―身延線バイパス、国道富士川橋架替など―わが家

新店舗の開店と

亡父の三回忌

本通り四 山下 篤さん(39)

わが家の重大ニュースは、昨今の不景気を跳返そうと、3月に新店舗を開店し、11月には父の代から続いていたもう一軒の店を新装開店したことがまず一番です。そして二番目には、12月中旬に行う亡父の三回忌があります。父は亡くなる相当以前から高血圧・心臓喘息・じん臓を病んでいました。

時に喘息については四十年以上も前から苦しめられていたという母の話であり、結局それが命取りになったのだらうと思えます。父は若い時は短気でしたが、年とともに性格も丸くなり、亡くなる前日「俺は、六八歳まで生きた。福子(母)お前は丈夫だから百まで生きれる。俺の死んだ後、親しい仲間もいることだし、健康に気をつけ楽しい余生を送るように」と話しました。亡父の法要が近づくとつれ、生前のことが思い出される今日このごろです。

初孫の成長に

一喜一憂

清水町 久保田カノ子さん(57)

わが家の今年一年間は、大人ばかりの生活に二十五年ぶりに幼児をまじえての、にぎやかな明け暮れで終りそうです。去年10月生まれた初孫の成長の変化は、夢中で育て上げたわが子たちの時とは、また一味違った大発見をする思いの毎日です。ともすると意志疎通が欠け勝ちな大人たちの心を、この幼児の泣き笑いや行動が、どんなになごませてくれたことでしょう

息子のサッカーで

日韓親善

旭町 清水和子さん(42)

わが家の重大ニュースは、7月25日に韓国の大田商業高校の呉炳大君と全敏煥君が宿泊したことです。これは、富士地区主催で「サッカーを通して日韓親善に寄与し青少年の健全育成を目指す」ことが目的の交流会を開いたことに端を発しています。外国人を滞在させることは初めてのことでなので心配しましたが、会話はできなくても体でぶつかり、食事は心のこもった物を作れば何とかなるだらうと思っていました。子どもたちはすぐ慣れ、身振り手振りでお互いの

息子のサッカーで、日韓親善。わが家の重大ニュースは、7月25日に韓国の大田商業高校の呉炳大君と全敏煥君が宿泊したこと。これは、富士地区主催で「サッカーを通して日韓親善に寄与し青少年の健全育成を目指す」ことが目的の交流会を開いたことに端を発しています。外国人を滞在させることは初めてのことでなので心配しましたが、会話はできなくても体でぶつかり、食事は心のこもった物を作れば何とかなるだらうと思っていました。子どもたちはすぐ慣れ、身振り手振りでお互いの

昭和58年1月のテーマ

年男・年女は 今年私は

ぼくは「いのしし年」で、来年は中学生です。中学生になったらやるのがたくさんあります。例えば、新しく英語が出てくるので、その英語を好きになり、よくわかるようにしたい。それに、小学生の時には発表してわかっていくけど、中学生になれば書く方が多くなると思うし、成績もはり出すので、がんばってやっつけていかないとならない。クラブもあり、帰日もおそくなる。クラブはたくさんあるけど入部したいよ。うなものは少ししかない。でも、必ず入らなくてはならない。また中学校は三年間、小学校は六年間と、考えてみれば、小学校の方が中学校より三年間も長いので、中学校生活はあつという間にすぎってしまうと思う。ノロノロしていたら、中学校の勉強がわからないうちに高校生」ということになってしまう。そう



◎昭和58年1月号のテーマ 年男・年女 今年私は 対象者 イノシシ年の人なら、どんなにかまいません。 ◎字 数 四百字づつ原稿用紙に一枚以内。 ◎締切り日 昭和58年1月6日(木)まで ◎投稿先・問合せ先 富士川町役場・総務課 岩淵一二期番地 ◎注意事項 匿名者の原稿は掲載いたしませんから、締切り日までに原稿用紙に必ず住所・氏名・年齢を記して投稿してください。

ママさん記者が取材中

～老人クラブ連合会～

師走とは思えないほどおだやかで暖かい12月2日、私たちは老人福祉センターを訪ね、同センター一階応接室にて、佐野安男・老人クラブ連合会長から、同会のことについて、お話をうかがいました。

同会は昭和37年に発足し、今年でちょうど二十年になるとのことでした。現在は佐野会長を中心に副会長二人・会計一人・会計監査二人の計六人で本部役員が構成されて、その下に二十七の単位の老人クラブがあり、一千九十一人（男が四百二十八人・女が六百六十三人）の会員が、それぞれの地区でユニークな会名の元に活動しています。

会としては「相互の親和・親睦社会への貢献」を目的にし、とかく自分の殻にとじこもり孤独になりやすい老人に対して、大勢の人と接し、視野を広げてもらうとうと地域社会との交流を行っていきます。また、町内六カ所にあるゲートボール場においても、勝敗にこだわらず、ゲートボールの原点に帰って、老人の健康のために、体の不自由な人でも高齢の人でも、誰でも参加できるように、試合は郡大会までとし、ゲームの枠を出ないよう定めています。このゲートボールが好影響をもたらし、老人医療費が減少しているということ、太陽を浴び適量な運動により、健康を取りもどせたということ、は大変喜ばしいことです。

次に、会の拠点である老人福祉センターについて話しますと、同センターは昭和40年3月に完成し町村でのセンター建設は、全国で当町が初めてのことでした。一階に社会福祉協議会や公民館長の事務室・娯楽室・静養室・面談室・相談室など、また二階は大集會室・小集會室・健康相談室（図書室を兼）などがあり、老人向けの一般図書を始め、社会福祉に関する新聞・雑誌、甚や将棋を備え老人のレクリエーションや映画会・講演会など広い範囲で使用できるようになっています。以上の点をみて、佐野会長さんは「人間の欲は終点がない。現在の老人は幸せだと思ふ」といつていました。

最後に会としての悩みをうかがうと、六〇歳になったといつても進んで入会してくれる人が少ないということでした。現在の六〇歳



右から佐野会長と 曾我 久子 曾我・中沢広報モニター

社会教育からの提言

現代人の歪み

私は、結婚式場やお祝いの席で華かに咲き誇り、いかにもわざとらしく生けてある花の姿にへきへきとする。逆に庭先でまばらに咲く寒菊のつましやかな美しさに心をひかれる。

どちらにせよ、それは個人の見方に任せるにしても、私たちは常に物に対して一定の価値観を基準にして見ていることは確かである。その私たちが「あなたが生きている証しは何なのか」と問われた時、即座にこれだと明言できる人は少ない。

一日の勤務に従事し、陽が落ちれば家路へと急ぐ生活パターンのくり返しの中で、自分の生きがいについて、静かに見つめる時間の余裕さえもないからかもしれない。

私たちは、知らないうちに、こうした社会構造の歯車の中へ組み込まれ、その回転の流れに乗せられて生きるはめに落ち入ったことに気づいていない。このような仕組みの囲いにさからわず、ただ動きまわる事に精一ぱいで、押し流されるがままに日々を送る。こうした生き方に人々は、危惧を感じながらも、

誰一人として何かを言いたそうとしないし、何かをやるうとする人もいない。かく言う自分自身も、他力本願なのである。

確かに現代は物が豊かである。腹も満ち足りている。寒い冬も暖かい。――だが、どこかに狂いがあり、人間として、これだけの物と立ち止まる。何か大きな忘れ物をしていないことを忘れていた。私たちは、その忘れ物が何であるのか、それらは、どこにあるのかを、家庭、学校を含めた地域の中で話し合い、探し当てることをしていかなければ、求める心の豊かさは得られない。そして、地域の人々がそれぞれに現代の歪みを歪みとして認める目を養い、目先の風潮に惑わされないだけの基盤づくりをしたいものである。

私は、単に食べる、飲む、寝る働く――という物理的にのみ生きる人間にはなりたくないと思っている。あの結婚式場に置かれた花の束のように、作られた色彩と魂のぬけた花にはなりたくない。小さくとも、人の心を留めて咲く庭先の寒菊のようになりたい。少なくとも生きていく人間なのだから――。

資料・東海地震

雁堤（かりがねづつみ）の屈曲

東大地震研 恒石幸正

国道一号線の富士川橋を東へ渡ると、水神社があります。雁堤は水神と岩本山を結んだ堤防で、その平面形が翼を拡げた雁の形に似ているため。こう呼ばれるようになったと伝えられています（11月号の図を参照）。

昔の富士川は、岩本山と水神の間を東へ流れくだったのですが、江戸時代の初期に下流部を新田開発するために雁堤を築いて本流をせき止め、水神の西側に新しい流路を移したのである。この工事は難行を極め、時の代官・古郡孫太夫が三代にわたって完成したのですが、途中で人柱まで供えたと伝えられています。この経緯は雁堤上の護位が推定されます。

雁堤は、一六八一年に出来上っていますから、一七〇七年の宝永地震と一八五四年の安政東海地震を経験していることになりました。富士川断層は南北に走っていますから、ここでは約十度の左ずれ変位が推定されます。



雁堤の屈曲 ※点線は富士川断層の位置

庵原郡環境衛生組合は、私たちの快適な日常生活を保つため、活動しています。衛生プラントはシ尿を、富士川クリーンセンターはゴミをそれぞれ処理しているわけですが、この富士川クリーンセンターに問題があります。

この施設は、九億円を投じて、昭和55年4月に完成したもので、内五億五千万円は三町負担として運転開始後、昭和69年度までの間、私たちの税金で支払っていかねばなりません。

毎年の管理費も含めると、例えば昭和56年度の実績では、富士川町七千三百三十七万円、蒲原町八千二百八十六万円、由比町五千四百十三万円という負担額（これは受入処理量が基本）になりました。このように、三町それぞれ巨額な負担となっており、したがって施設の機械は大切に運転していく必要があります。

ゴミの分別に注意を またある空カン・金属類の混入

ところが、困ることに、各家庭で「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」と分別され、当然「燃えるゴミ」だけになって搬入されてくるはずのゴミの中に、まだまだ空カン、金属類が混入しています。

これがないへん破砕機の刃をいため、他の機器にも悪影響を与えています。この刃などは、一基で四百万円もする高額なもので、そのため、この刃に燃えるゴミの他の機器も補修には相当の出費をいられます。そして、これらは私たちに負担となつてはね返ってくるのですから、燃えるゴミの収集日には、ぜひ空カン、その他の金属類などの不燃物を混入しないよう私たち一人ひとりが心掛きましょう。

◎ゴミの出し方

○燃えるもの、燃えないもの



区別をして、必ず収集日に指定場所へ出ししょう。

- 残飯、野菜くずなど水分の多いものは水を切り、袋に入れて燃えるものの収集日に出ししょう。
- 金属類、セトモノ、ガラス類などは燃えないものの収集日に出ししょう。
- 粗大ゴミ（家具類など）は分解し、長さを五十センチ以下にして束ねて、木製品は燃えるものの収集日に、金属製品は燃えないものの収集日に出ししょう。

また、現在はいらなくなったものを単にゴミとして見過ごしている時代ではありません。私たち一人ひとりが廃品回収などに協力するだけでゴミは減量化しますし、再資源化にもつながるのではないのでしょうか。

戸籍の窓

57・11・1〜11・30届出
(敬称略)

おめでた

区名	氏名	保護者続柄	上町	桑原卓嗣	康晃	長男	
相生町	秋山晴美	哲男	舟山町	齋藤智子	督雄 <td>長女</td>	長女	
川村	礼	達郎	新町	渡邊元紀	隆	二男	
芦川	希潤	一郎	宮町	松下智之	竹男	二男	
			幸町	芦川陽一	訓章	長男	
			富士見町	中澤	舞	正己	長女
			八幡町	望月真理子	泰博	長女	
				古谷陽子	通安	二女	

かなしみ

区名	氏名	年齢	富士松野	井手一男	均	長男
			清水町	久保田暁子	裕進	長女
				佐田直子	勝巳	長女
			大北町	小川有紀	知洋	長女

おかあさんの知恵袋
 金の海外先物取引
 悪質商法にご用心
 最近、香港商品取引所の金の先物取引に一般消費者が巻き込まれる悪質業者によって大金をまき上げられるといったケースが急増している。この取引は、現物の受け渡しは数ヶ月後というのがほとんどで、その間に、保証金や予約金を積み増しさせ、しかも、契約書には特別な付帯条件がついていて、途中で解約できないようになっていくことが多く、あげくのはては客に大損させるといふものだ。



一里塚

私の生まれた小池をたまには散歩してみようと思ひ、まだ明けやらぬ午前6時、ツツカケをはき家を出ると、フツと昔の小池が脳裏に浮んできた。——山を背に五十数軒の農家が並び、凹凸で砂じんの立つ道、その向い側には広々とした田圃が続く自然で素朴な田圃風景——。そんなことを思いつつ七、八分歩を進めると、おそらくこのあたりが底無し沼の田圃だっただろう、農家の人たちが田植下駄をはき、田植をしていたことが目に浮んでくる。また、ここは、小川と田圃から流れる水の集まりで深みが多く、ドジョウ・鮒・鯉などがいて、学校から帰るとカ

町への寄付金

(敬称略)

中央公民館建設基金へ
 二万九千二百円
 南松野紙人形グループ
 代表 西森千鶴子他五人

善意銀行へ寄託

57・10・1〜12・9
 二千元 宮町白寿会老人クラブ
 五万円 相生町 長谷川 清
 一千三十一円

編集後記

12月になると忘年会のシーズンとなる。暴飲暴食に注意！ 自分の体調は自分自身だけにしかかわからないものである。

富士川短歌会

11月詠草 (天野 寛選)

快方に向う兆しのなき夫の顔描かむとキャンパスによる
 本通 長橋安子
 庭隅のひともと南天もみじしてひそけきわが家の秋逝かむとす
 四十九 辻 すみじ
 入場料高き強羅公園に入りてグロテスクなる鳥あまた見る
 四十九 入月弘子
 薦からむ石垣の下落葉やく煙はみだる冬立つ朝
 本通 高橋勝治
 洪水に今しも流るる鉄橋を捕へて書きし絵の前に立つ
 新町 菊地信義
 ゲートボールの郡の大会近づけば老等の氣迫日に高まりぬ
 本通 望月 録
 秋深きここ船原の峠道霧湧きおこり車をつつむ
 新町 村山越子
 朱に塗りし天狗の履くとう鉄下駄にぬか雨降ればポーズして立つ
 本通 桐谷静子
 ルーブルの絵画の前に息のみぬ生けるがごとき寫實に打たれて
 静岡 斎藤典子
 一枚の鉄扉隔てて曝し合うおののの言に時に惑いて